新生児期の栄養と身体発育の推移と罹病傾向について

研究協力者
（北海道社保中央小児科）　南　部　春　生

1. 協同研究

調査表に基いた資料は115例で，新生児期の栄養法は母乳７４，混合２３，人工１６例である。12ヶ月間の検診が終了したものは３４例である。

2. 札幌市における生後３ヶ月検診時の母乳摂取状況は４４年25.6，４6年22.5，４8年16.5％と下降し以後４９年21.6，５0年26.5％とやや上昇している。当院では５１年完全母乳化後は１ヶ月53.7，2ヶ月38.0，4ヶ月34.2％で，国立岡山には及ばない。

3. 新生児期栄養法別体重減少率

５０年（混合群），５１年（母乳群）とし，体重別，性別に体重減少率をみたが，最低値を示した日令は混合群で2.0～3.3日，母乳群は4.6～5.5日，減少率は混合3.5～4.5％，母乳群6.0～8.0％でいずれも両者に有意な差があった。

4. 正後２ヶ月迄の栄養法別に体重法別に体重発達の推移をみたが，５０，５１年とも栄養法に関係なく生後２ヶ月迄は１日平均３５ｇ，２－４ヶ月迄は２５ｇ，４－６ヶ月迄は１５ｇの体重増加である。

5. 母乳依存により低栄養状態となり入院加療した乳児を５１年度に３例経験した。

6. 昭和５１年４月～５月の１ヶ月間に北海道各地の小児科もしくは保健所等で乳検を受けた約2,０００例の母親についてアンケート調査を行った結果，①育児不安は第１子をもつ親に多い，②これらの母親の８０％が母乳で育てられているが，自分の子供には３０％しか母乳を与えていない，③初乳の重要性については比較的多くの母親が感じているが，退院指導を受けているものに認識度が高い，④発熱の経験は３－６ヶ月児で２０％，６～１５ヶ月では２～３倍に増加している，⑤湿疹の出現率は比較的高かつたが栄養法別の検討は行っていない。

6. これらの成積を今後の育児指導の中で取り入れ，指導の効果を高めたい。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

1.協同研究

調査表に基いた資料は 115 例で,新生児期の栄養法は母乳 74,混合 23,人工 16 例である。12 ケ月間の検診が終了したものは 34 例である。